

# 鉄筋工事配筋要領書

(2019年版)

公益社団法人 全国鉄筋工事業協会

## はじめに

昭和60年に初版を発行、平成5年、平成12年、平成21年と改訂を重ねてきました「配筋要領書」については、数多くの方々のご支持を得て鉄筋工事に従事する者や関連のある方々に利用されてきましたが、この度、「2019年版」として内容を見直し改訂発行することとなりました。

初版発行以来、世の中の動きに伴い仕様書として指導的役割を担ってきた国土交通大臣官房官庁営繕部の共通仕様書、一般社団法人日本建築学会の標準仕様書等についても、数々の改定を経て現代の建設事情及び技術革新などに対応してきています。

一方、施工を担う鉄筋業界としても、数々の改定に対応しつつ最前線の工事現場にて今日の趨勢でもある「一品料理のような様々な仕様書」に敢然と挑戦して参りました。とはいえ、施主、設計事務所及び総合建設業者、そして専門工事業者の位置付けに大きな変化はないものの、最前線である実際の現場では従来のような位置付けでは望むべくもない状況に立ち至っています。

建設業界全体の取り組みとしては、ICT化、ロボット化などが加速すると思われませんが、鉄筋工事においては大部分を職人の能力に依存している状況が大きく変わることはないと思います。地震大国の我が国において、安全で、安心な建物づくりに最も重要な役割を果たしている鉄筋工事が、その役割を果たし続けるためには、優れた技術継承が必要不可欠です。「責任施工」というキーワードとともに、鉄筋工事を専門とする鉄筋工事業者としても、様々な仕様に対応していく必要に迫られております。この状況は、施主、設計の特に監理者、総合建設業者の現場担当者の方々についても同様です。現場において「技術」と「技能」がうまくかみ合う、それなくして鉄筋工事での現場の再生はありえません。

「2019年版配筋要領書」は完全なものではありません。施主、設計の特に監理者、総合建設業者の現場担当者と鉄筋工事に従事する者が、現場においてたたき台としてお互いに活用することにより、施工そのものはもとより、「2019年版配筋要領書」の将来の改定への糧となることが期待できます。

多くの方々のご活用を切に願う次第です。

2019年4月

公益社団法人 全国鉄筋工事業協会  
会長 岩田正吾

## 参 考 文 献

- \* JISハンドブック（鉄鋼）最新版2010 日本規格協会
- \* 建築工事標準仕様書（平成28年度）（一社）公共建築協会
- \* 建築工事監理指針（平成28年度）（一社）公共建築協会
- \* 建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5  
鉄筋コンクリート工事 2015 日本建築学会
- \* 鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説 2010 日本建築学会
- \* 鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説 2005 日本建築学会
- \* 壁式構造配筋指針・同解説 2013 日本建築学会
- \* 都市再生機構の標準配筋図
- \* 日本建築士事務所協会連合会の標準配筋図
- \* その他各設計事務所及び総合建設会社の標準配筋図

### ◎凡 例

解説の中（文中、表、図）に引用した参考文献については、下記の略称を用いた。

JIS	……………	JISハンドブック（鉄鋼）2010
標準仕様書	……………	建築工事標準仕様書（平成28年度）
監理指針	……………	建築工事標準監理指針（平成28年度）
JASS 5	……………	建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事2015
配筋指針	……………	鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説 2010
壁構配筋指針	……………	壁式構造配筋指針・同解説 2013

### 技術委員会

委員長 新 妻 尚 祐（東鉄協）

副委員長 井手口 勉（佐 賀）

委 員 國 井 角 成（北海道） 宮 田 尚 明（東鉄協）

安 藤 理 人（東鉄協） 鈴 木 弘（鉄工協）

高 橋 英 雄（神奈川） 神 田 幸 夫（新 潟）

山 本 俊 輔（愛 知） 恵 谷 信（関 西）

# 鉄筋工事配筋要領書 (2019年版)

## 目 次

1 章 共通事項	1
§ 1. 1 鉄筋の種類及び記号	1
§ 1. 2 鉄筋のかぶり厚さ	4
§ 1. 3 鉄筋のあき・間隔	9
§ 1. 4 鉄筋サポート・スペーサー	11
§ 1. 5 鉄筋の加工形状・加工および組立	14
§ 1. 6 鉄筋の定着長さ及び継手	21
§ 1. 7 品質管理・検査	37
2 章 基礎	39
§ 2. 1 基礎の分類	39
§ 2. 2 基礎のかぶり厚さ例	42
§ 2. 3 独立基礎の配筋例	43
§ 2. 4 布基礎 (連続基礎)	59
§ 2. 5 べた基礎 (耐圧スラブ)	64
3 章 基礎梁	72
§ 3. 1 基礎梁の継手及び定着方法	72
§ 3. 2 基礎梁のかぶり厚さ	96
§ 3. 3 スタラップの形状・配筋	102
§ 3. 4 基礎梁組立て用架台	111
4 章 柱	116
§ 4. 1 柱筋の配筋と名称	116
§ 4. 2 柱のかぶり厚さ	120
§ 4. 3 柱筋の定着と納まり	123
§ 4. 4 柱筋の絞り	136
§ 4. 5 斜め柱	139
§ 4. 6 柱筋の継手の位置	140
§ 4. 7 帯筋	142
§ 4. 8 柱筋の組立て順序	152
5 章 梁	157
§ 5. 1 大梁	157
§ 5. 2 大梁筋の継手位置	158
§ 5. 3 大梁筋の定着	161
§ 5. 4 小梁・片持梁	173
§ 5. 5 あばら筋 (スタラップ)・腹筋・幅止め筋	179

§ 5. 6	梁筋の組立て順序	191
6 章	壁	193
§ 6. 1	壁一般	193
§ 6. 2	一般壁の配筋	194
§ 6. 3	一般壁の継手	200
§ 6. 4	一般壁の定着	203
§ 6. 5	地下外壁の配筋	210
§ 6. 6	壁筋の配筋順序	212
§ 6. 7	壁開口部の補強	215
§ 6. 8	構造スリット・誘発目地のある配筋	218
§ 6. 9	壁筋の周辺鉄骨への定着方法	220
7 章	スラブ	222
§ 7. 1	スラブ一般	222
§ 7. 2	一般スラブの配筋	223
§ 7. 3	スラブ筋の継手	227
§ 7. 4	スラブ筋の定着	230
§ 7. 5	片持スラブの配筋	236
§ 7. 6	スラブ筋の各種補強	242
§ 7. 7	鉄筋格子を用いたスラブ配筋	251
§ 7. 8	土間スラブ	252
8 章	階段	254
§ 8. 1	片持階段	254
§ 8. 2	スラブ階段	259
9 章	参考資料	269
§ 9. 1	異形棒鋼のロールマーク	269
§ 9. 2	継手管理技士制度	271